

IC Short History

第1回大会まで

森の中の孤獨なスポーツだったオリエンテーリングが変化しはじめたのは1991年頃からだった。オリエンテーリングがよりビジュアルにそしてマスコミ受けするようにと考え出された競技がショートディスタンス種目である。まずワールドカップで試行大会が行われはじめた。まだ世界中がショートディスタンス種目に対して手探り状態だった。

この動きに日本学連も反応した。1992年には長野県山口村の馬籠で第0回大会ともいべきインカレショート試行大会が、まさに手探り状態で開催された。しかし、同日に予選・決勝を行う方式はこの時から実施され、現在も引き継がれている。

第1回大会

学連にて一応の規則を作成して1993年秋に開催されたのが長野県伊那市で行われた第1回大会である。

この時は予選各組60名のうち20名が決勝進出であったり、現時とは少し違うスタイルだった。しかし早くも決勝ではビジュアル区間も設けられ、最初から「見せるオリエンテーリング」としてのコンセプトを打ち出した大会になった。参加者は400名強。春のインカレの第1回と同程度の規模となった。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 入江 崇 (東北3) | 山口 純子 (名古屋2) |
| 2 南条 伸穂 (学習院4) | 酒井 佳子 (北海道4) |
| 3 武田 光 (早稲田4) | 植田 佳子 (広島3) |
| 4 安良 和寿 (筑波3) | 志村 聡子 (早稲田3) |
| 5 森 泰祐 (山口2) | 高木 貴美江 (京都橘女子4) |
| 6 鈴木 卓弥 (東京4) | 片岡 由起子 (筑波2) |

第2回大会

第2回は1994年秋に宮城県の鬼首高原で行われた。

現地スキーリゾートとのタイアップ、ビジュアルを意識したレイアウト、初めてのシード制。徐々に選手権としてのステータスが高まってきた。翌日の東北大学大会と合わせて参加者には2日間のイベントとなった。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 入江 崇 (東北4) | 田中 裕子 (筑波2) |
| 2 藤城 公久 (筑波3) | 志村 聡子 (早稲田4) |
| 3 太田 晃弘 (東京2) | 山口 純子 (名古屋3) |
| 4 野中 俊樹 (東京4) | 片岡 由起子 (筑波3) |
| 5 岡安 隆史 (千葉4) | 稲村 仁美 (広島4) |
| 6 一瀬 建日 (京都3) | 中野 宏美 (静岡4) |

第3回大会

第3回は1995年秋に日光で行われた。

初めての関東地区での開催ということもあってインカレショートはこの大会からブレイクする。参加者は約600名。

この大会では偶然来日していたIOFの事務局長とスキーO委員長がこの大会を視察し、実際にO-mapを持って走った。この大会の新人クラスではIOF事務局長よりメダルの授与が行われた。ワールドカップで上位に入っても、こうした機会は滅多に無い。学連行事にIOF関係者が協力した記念の大会となった。

この大会より、レーン制が導入され、選手権としての形態は一応の完成を見る。一方学生新人クラスを設けて多数表彰したりと、インカレショート大会が新人の登竜門であることを印象づけた大会だった。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 大西 淳一 (東京4) | 山本 康世 (国際基督教4) |
| 2 世古口 裕史 (東京工業3) | 染矢 和子 (千葉4) |
| 3 藤咲 芳春 (東京4) | 田中 節美 (筑波3) |
| 4 太田 晃弘 (東京3) | 中村 正子 (筑波3) |
| 5 柿並 義宏 (東北4) | 岡原 桂子 (筑波4) |
| 6 山内 亮太 (早稲田4) | 中尾 あずさ (実践女子4) |

第4回大会

第4回は1996年秋に長野県菅平高原で行われた。大会は日光の大会で完成されたスタイルをそのまま踏襲した。

この大会は長野県OL協会と共催で、会計は長野県OL協会ですべてまかなった。こうした形態は日本学連主催大会では初めてのケースとなった。長野県OL協会は翌日に同じトレインでリレー大会を開催した。

こうしたこともあって大会参加者は900名弱まで集まり、もはやビッグ大会と言って差し支えない規模となった。こうした2日間形式のインカレショート大会は今後の大会のありかたの一つの回答とも言えるものである。この大会では優勝インタビューで結婚宣言が飛び出した一幕もあった。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 薛 孝太郎 (京都4) | 中村 正子 (筑波4) |
| 2 石澤 俊崇 (早稲田4) | 大西 真理子 (東京女子4) |
| 3 太田 晃弘 (東京4) | 山内 祐子 (日本女子3) |
| 4 桂田 靖之 (名古屋4) | 田中 節美 (筑波4) |
| 5 渡辺 研也 (東北3) | 田中 裕子 (筑波4) |
| 6 美濃部 篤 (筑波3) | 堀井 亜紀 (筑波3) |

第5回大会

第5回は1997年秋に静岡県富士宮市で行われた。翌日には日本学連主催のリレー大会も開催され、参加者はとうとう1,000名の大台を突破した。こうした営業努力と民宿西の家のスポンサーによる地図作成もあり、過去最高の黒字を計上した大会となった。

この大会の特徴は、実行委員会が日本学生オリエンテーリング連盟などを通じて大学を超えて知り合った同期生が中心となっていることである。これからの日本のクラブの方向性のひとつを示した大会運営であったとも言える。

また、この大会は演出に最大限の力を注いだ大会でもあった。「見せるオリエンテーリング」を強く意識した演出で、決勝進出者は本当に輝いて見えた大会だった。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 美濃部 篤 (筑波4) | 金子 恵美 (東京女子4) |
| 2 山口 大助 (千葉4) | 渡辺 円香 (筑波4) |
| 3 近藤 貴文 (東京4) | 堀井 亜紀 (筑波4) |
| 4 白土 英治 (東北4) | 山内 祐子 (日本女子4) |
| 5 兼田 僚太郎 (早稲田2) | 丹羽 美智子 (東北4) |
| 6 篠原 岳夫 (筑波2) | 堀出 知里 (筑波4) |

第6回大会

第6回は1998年秋に岐阜県坂下町で行われ、第5回大会に引き続く過去のインカレマップのリメイクで開催された。このイベントはスポレク岐阜大会とのタイアップで行われ、地元交渉、施設借用など地元の全面的な協力の下に実現した。

首都圏から遠く、また3年ぶりの単日大会となったため、参加者の大幅な減少が懸念されたが、予想以上の参加者に恵まれ無事黒字を達成することができた。

当日は時折雨模様となったが、もはやインカレショートのステータスも定着し、応援にも熱の入る大会となった。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 村上 健介 (筑波4) | 酒井 真由美 (日本女子3) |
| 2 篠原 岳夫 (筑波3) | 赤石 英美 (東京農業4) |
| 3 水嶋 孝久 (静岡4) | 伊藤 恭子 (筑波3) |
| 4 高橋 喜徳 (筑波3) | 辻井 享子 (京都女子4) |
| 5 石井 泰朗 (東北4) | 吉田 奈津子 (茨城4) |
| 6 上野 大悟 (東京3) | 河野 真理 (日本女子4) |

そして第7回大会

第7回は1999年秋、4年ぶりに日光での開催となる。学生最速の座を争う熱い戦いがまた始まる。

(木村 佳司)